

## 奥秩父：笛吹川 ヌク沢左俣

- ◆日程 2017年6月3日(土)  
◆メンバー L：小林、須田、日比野、佐藤、前田、小山田、岡村  
◆天候 晴れ

小林号は日比野、佐藤 須田号に小山田と岡村が乗車し登山口の道の駅 みとみ に 23 時半に到着した。既に多くの登山者がテント前泊していた。先に到着している前田さんを除く 6 名は道の駅の庇を借りて寝床を準備、かるい入山祝いで喉を潤した。明日は早いので早々にシュラフに入る。

5 時起きで各自朝食を取る。メンバー 7 名全員が集合し 6 時に出発、林道を歩く。ヌク沢橋で遡行準備、入渓する。ナメ床の綺麗な溪相である。先は長いし 5m



大滝を登り終え緊張感から解放、充実の笑顔。

滝は登らずに右岸を小さく高巻く。近丸新道が横切った先の堰堤は上まで巻く必要があった。川床に降りた所で一回目の小休止をとる。

ここからナメが美しい。緑のなかを水が走っていく。上流からの土砂の押し出しでゴーロの間にナメ床があちこちに顔をだす。天気も良く 明るい新緑のなかを心地良い沢歩きが楽しめる。左岸のおおきなガレと堰堤 2 つを越えると二俣、枝沢もあり、まるで三俣に見える。上には林道が通っているのが見える。ここで終了し林道下山のお手軽コースでも奥秩父の沢を十分に楽しむ事が出来ると思う。沢に入れなかった年齢になった時、私の将来ルートになりそう。

1640m の奥の二俣は 1:3 の水量、右沢に入る。ナメの小滝が連続しトイ状の滝やら、変化に富んだ沢が遡行者を飽きさせない。先に 2 段 15m が見える。15m を登りこの先に大滝が「ドドン」と控えている。大滝は樹木と上部の傾斜で一部分しか見えないが下段だけで「さすが！」の景観である。休憩の間に乾杯ビールを冷やす。「ヘッ、ヘッヘッ」と意味のない笑いや「私は来るべきでは無かったか？」と漏らす者も、。全員この滝を見ただけで圧倒される。大滝の登攀に向け腹を満たし気合を入れなおす。いざ今回のメイン！

下段 100m は水流の中を登る。上部は段々と傾斜がきつくなり慎重さが求められる。一か所細引きで確保した。その先で私はシャワークライムを楽しんで水流に入った、上から浴びて濡れても苦にはならない。

中段 80m は大滝の中で最も美しい所、全員で記念撮影をした。中段の登り始め、嬉しさの感動、23 年前、11 年前と 3 回目になるが決して色あせる事は無い、それだけの素晴らしい滝なのだ。中央の水流の中を登って、左に移動して水流の左の淵を登る。さらに右にトラバースし岩の窪みを直上した。中段の上部が一番難しい場所だろう。11 年前はロープで確保し水流右を登ったと思う。今回は多人数、時間との兼ね合いもありロープなしのコースを選んだ。



須田さんは一人水流のそばをチャレンジ進退決めかねていた。そこで待っているように促して6名は先に中段の滝上に出た。上からシングルロープで途中まで懸垂すると須田さんの位置が見えたのでここで仮固定をとりロープを投げ、確保して登って貰う。

さらに続く上段60m滝、水流に近い場所のルートを拾っ

て登る。下段最後の滝も水流の中と思っただが気分が乗らず右に逃げる。砂状で嫌、水流に戻る。でも一歩が、一歩が出ない。疲労もありここで落ちると捻挫か骨折、ハア、と頭をよぎる。空身で行こうと下に戻ると既に須田さんが右の淵を登っていてくれた。ロープフィックスして貰いゴボウで登る。残りの人もフリクションノットで登り3段240m大滝登攀が無事完了、2時間半を要した。上段、昔は80mとされていたが最近のネットでは50mの表記も見える。私は60mと踏み3段240mの滝とした。大滝を全員事故もなく無事に登り終えて充実感に満ちた笑顔の記念撮影、富士山も一緒に祝福してくれた。

傾斜は緩んできたが尚もトイ状のナメ滝やら小滝が連続して続く。左右からのガレの押し出しがあり源流が近い事を感じさせる。鹿の角が落ちていて大滝登攀記念として2本を小山田さんが持ち帰った。水が枯れ2300m辺りで右にトラバースし登山道に出た。

近丸新道の合流点で沢装備を解き、冷やした物1本を回し飲み乾杯、うまかった！でもあまりゆっくりとはしてられない、ヘッドランプを出せるようにし下山開始した。下山を始めて直ぐに展望地に出る。正面に国師岳と右奥に朝日岳、左にはゴトメキから黒金山が雄大に広がっている。ヌク沢の渡渉点から森林軌道跡を歩き、明るいうちに道の駅に戻る事が出来た。

最後に：沢は楽しい。自分の力量のワンランク上を乗り越え、後で反芻するから楽しいのだろう。それには事前準備が必要である。岩トレは勿論、最低月1-2回の山歩きで体が沢についていける状態である事である。疲労で注意散漫、緊張が重なれば事故の確率が上がる。沢でのアクシデントは一般尾根道と違いとんでも無い事になるのは必至。自らの力量の50%から最大でも70%と思う。

CT:道の駅みとみ 6:00-ヌク沢橋 6:30 入溪 6:50-近丸新道先の堰堤 8:05/8:15-  
二俣 9:17/9:32-240m3段大滝の下 10:30 大滝とりつき 10:45-大滝終了点  
13:10/13:20-登山道 14:32-近丸新道分岐 14:52/15:25-林道 18:00-道の駅  
みとみ 18:25

(記：こばやし)

**佐藤**：核心 100m+80m+50m を登ったとき、より無難なルートを選んで登った。少しもチャレンジ出来なかった事を後悔する。次に行く時までにもっとレベルアップして再挑戦したいと思いました。

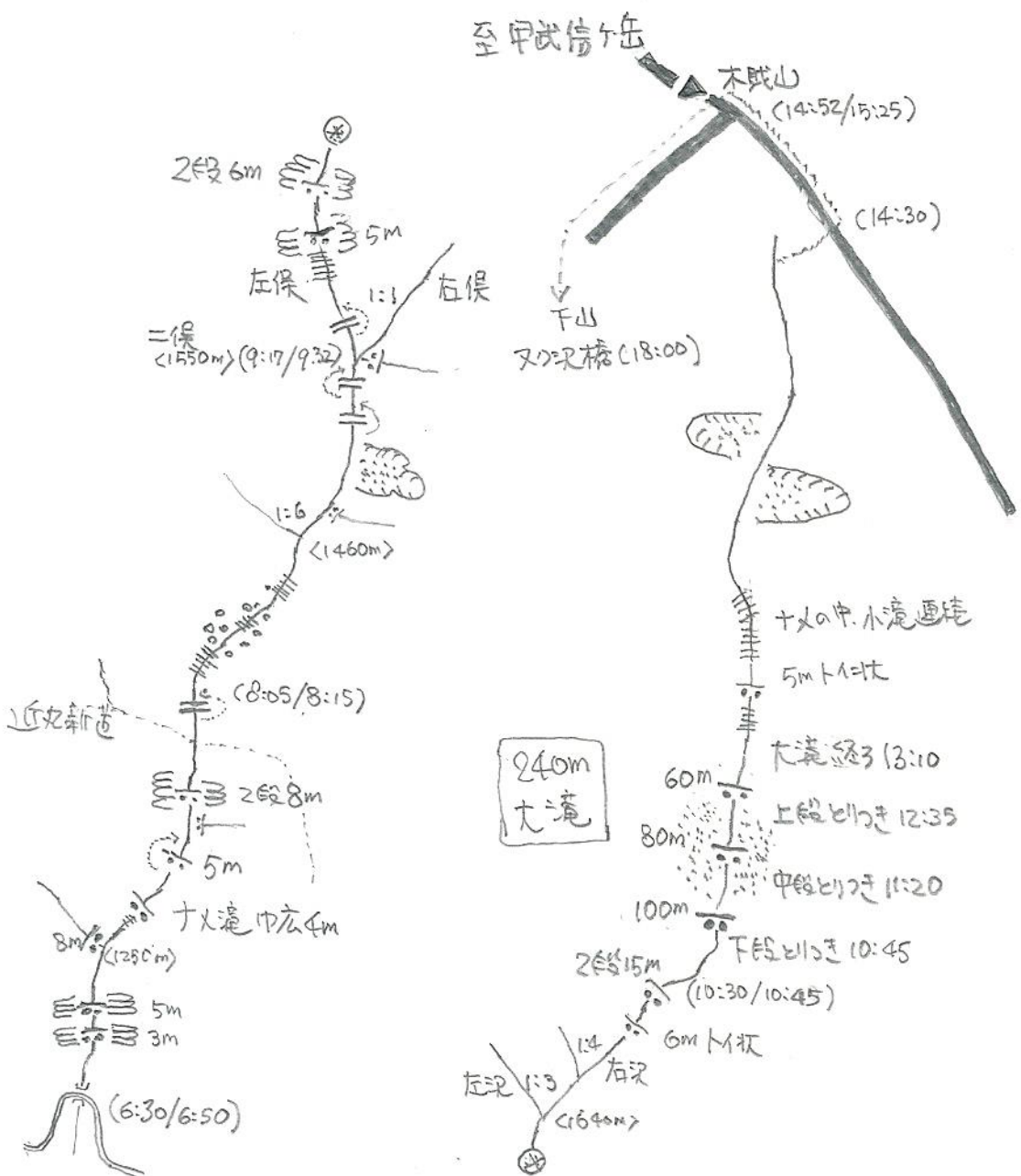
温泉立ち寄り：「道の駅みとみ」から車で塩山方面に 30 分ほど行った「花かげの湯」に行きました。公営の温泉施設で、外湯は湯温が低いので長く入っていられます。浴後は休み処もあるので、のんびりくつろぐ事が出来ます。併設する食事処「はくさい」の天井はボリューム満天でした。

**前田**：しばらく暑い日が続いたので、奥秩父も暑いであろうと勝手な想像をしていたが、意外に肌寒く、水しぶきを被ってしまうと寒くて凍えるくらいでした。最期の核心である大滝を目の前にすると、とても高く幅もあり、評判通りの景観で圧巻でした。ワクワク感と不安感が入り交じりながらも、ケガなく登攀できたのは、小林リーダーのルートの選択があったからと思っております。技術が身に付いたなら、今度は真夏に水を被りながら正面突破してみたいです。

**小山田**：大滝の下で見上げた時に、とんでもない所にきちゃったなあ、と笑うしかなかったのですが、上からの眺めは素晴らしかったです。皆さんのおかげで無事登って降りてこられました。感謝です。岩トレはザックを背負ってやらないと意味がないことを痛感。緊張感も楽しさも自分史上最高でした。

**岡村**：大滝は圧巻。遠目に見た大きさに「あんなの無理だ」、真下に来ると「あそこを通ればもしかして登れるかも」、いざ取り付くと「あれ、ここはどうしたらいいんだ？」と、いろいろな思いが頭の中を通り過ぎていきました。明るくさわやかで楽しかった。





6/3/2017 又ノ沢左保右沢 (作図: 小林)